

授業改善プラン

地域名	東葛飾教育事務所	学校名	松戸市立高木第二小学校
-----	----------	-----	-------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 平成31年度から令和3年度までの全国学力・学習状況調査において、算数科全体の平均正答率が国や県の平均を下回り、その中でも特に、「数と計算」領域の平均が国や県を大きく下回っていた。
- 無解答率が国や県よりも高かったが、誤答分析の解答類型から、99（その他の解答）の割合も高く、問題を最後まで解ききれない児童が多いと考えられる。
- 令和4年度の全国学力・学習状況調査では、特に概数の問題に課題が見られた。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 各学年の発達段階に即した「数と計算」の領域における基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図り、成就感や達成感を味わわせて児童の学習意欲を向上させることが学力向上につながると考えた。
- 児童の実態や学習内容に応じて、ICT機器を効果的に取り入れることにより、児童の学習に対する関心が高まり、意欲的に取り組むだろうと考えた。

3. 具体的な実践

- 授業改善に関する実践（令和3年度からの継続）
 - ・『『思考し、表現する力』を高める実践プログラム』をもとに、授業の流れや、ノートの使い方などの学習のルールを統一する。
 - ・発達段階に応じた対話的な活動を取り入れる。
 - ・児童の学習への関心を高めるため、単元や学習内容に応じてICT機器を活用する。
 - ・自力解決を行う前に、答えの数値や答えを出すための手段について見通しをもつ時間をつくる。
- 教員の研修に関する実践
 - ・全国学力・学習状況調査で本校の課題となった問題を、全職員で解いてみる。問題に取り組んだあとに、正答率が低くなった原因を分析したり、課題を解決するための手立てを話し合ったりする。
 - ・全国学力・学習状況調査の仮採点を行い、今年度の本校の課題を早い段階で把握し、授業改善に生かす。

4. 成果

- 授業の流れや学習のルールを統一したものを継続してきたことにより、見通しをもって学習に取り組める児童や、学習問題やまとめを自分の言葉で書くことができる児童が増えてきた。
- まだ全国平均より下回ってはいるが、今年度の全国学力・学習状況調査において、国や県の平均との差を縮めることができた。
- 本校独自に行っている「数と計算領域」に関する20問テストにおいて、1学期と2学期の結果を比べたところ、全ての学年において正答率が上がっていたことから、基礎的な学力が身につけてきていると考えられる。

◆担当指導主事から（東葛飾教育事務所 指導主事 本橋 一浩）

- 全国学力・学習状況調査の分析を職員全体で行ったことは、実態把握や学力観の共有につながる素晴らしい取組であった。また、『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』を活用し、授業の流れを明確にしたり、ノートの使い方を全校で統一したりすることで日常的な授業改善につながっていた。ICTの効果的な活用も進み、児童の資質・能力の向上が見られた。